



ロータリーは機会の扉を開く

春日井ロータリークラブ

2020～2021年度 WEEKLY REPORT

クラブテーマ

「今・必要な良いことをしよう。みんなで」 奉仕目的と目標を明確にしよう。



会 長：和田 了司 例会日：金曜日 12:30～13:30
 副会長：川瀬 治通 例会場：ホテルプラザ勝川
 副会長：速水 敬志 事務局：春日井市鳥居松町5-45
 幹 事：朽本 正樹 TEL：(0568)81-8498
 FAX：(0568)82-0265
 E-mail：ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp



ニュートンの林檎の木

本日のプログラム

- | | | |
|--------------|-----------------|--|
| | 司会 会場委員会 | |
| ・点鐘 | 会長 和田 了司君 | |
| ・国歌 | 「君が代」 | |
| ・ROTARY SONG | 「我等の生業」 | |
| ・ビジター紹介 | 会長 和田 了司君 | |
| ・都市緑化植物園園長挨拶 | 園長 西岡 靖成様 | |
| ・委員会報告 | | |
| ・会長挨拶 | 会長 和田 了司君 | |
| ・卓話 | 北 健司君 | |
| ・幹事報告 | 幹事 朽本 正樹君 | |
| ・点鐘 | 会長 和田 了司君 | |

先週の記録

会長挨拶 会長 和田 了司君

皆さん、こんにちは、本日は春日井ロータリークラブ・名古屋空港ロータリークラブ・名古屋城北ロータリークラブが提唱している春日丘高校インターアクトクラブの皆さんが1年間の活動報告に来ていただいております。春日丘インターアクトクラブは2001年4月に結成されました。本年4月1日には創立20周年となるわけです。昨年も年間約200回にわたる慈善活動で地元へ貢献しながら部員各々の成長もたしかなものとしてきました。

本年は輝かしきこととして「第24回ボランティア・スピリット・アワード全国大会」にて「スピリット オブ コミュニティ奨励賞」を受賞されました。この大会の目的は、今年度の高校生の主体的な取り組みや、ボランティア活動などを発表するス

2021年4月2日(金)2470回(4月第1例会)

ピーチ大会の成績の報告です。全国280校がエントリーし、全国大会出場に当たる「東海・北陸ブロック・ブロック賞」が20校、その中で春日丘高校インターアクトクラブが選ばれた「スピリット オブ コミュニティ奨励賞」は4校だけです。最優秀校は文部科学大臣賞になるので、その次点に当たるわけです。

フロンティア・スピリット・アワードは、ボランティア活動のスピーチ大会としては全国最大規模で、歴史も比較的長い大会です。ボランティア活動を行っている団体としては、目標としている大会の一つです。

私たちとしても、『行動するロータリアン』として春日丘高校インターアクターとの連携をし、若い力を積極的に取り入れてクラブの活性化を図りたいと思っております。また今後のご活躍を期待いたします。

さて3月14日に地区大会が開催されました。ズームとリアルとのハイブリッドでの大会でした。10月予定が5ヶ月遅れとはいえ開催されました。リアル会場では友愛の広場は取りやめ、また全員マスク着用のため2・3回お会いしただけの他クラブの方とはお互いに本人確認がままにならない状態でした。しかし開催できたということは、ロータリーの継続という意味ではよかったですと思います。

国際大会は台湾・台北市で6月12日～16日開催されます。コロナ禍を鑑みてリモートでの大会となります。台湾は10年前の東日本震災時には大変なご支援を頂いた親日国であります。盛り上げてあげたい気持ちで一杯ですが・・・せめて英語が堪能な

母子の健康月間

	4月9日(金)	4月16日(金)	4月23日(金)	4月30日(金)
例会予定	第10回理事会 11:15～ 卓話 春日井市長 伊藤 太様	祝福 卓話 春日井 JC 理事長 泰丘 良玄様 春日井商工会議所青年部会長 大西 忠様	春日井警察署員表彰 卓話 春日井警察署長 鈴木田 幸治様	休会

方はリモートで世界のロータリアンと交流していただくことを期待します。

幹事報告 幹事 朽本 正樹君

◎3/16 臨時理事会が開催され、春日丘インターアクトクラブに活動助成金として、50,000 円ニコボックスより支払われることが承認されました。

◎3/22 名古屋城北 RC の創立 35 周年記念例会が開催されました。コロナ禍の為クラブ内のみでの開催となり祝電にてお祝いを申し上げます。

◎和田了司君・朽本正樹が米山奨学に、大原泰昭君がポール・ハリス・フェローにそれぞれ寄付をされ、感謝状が贈られました。

出席報告 委員長 友松 英樹君

会員 53 名	出席 36 名	出席率 68.0%
先々週の修正出席	出席 55 名	出席率 100.0%

ニコボックス報告 委員長 岡本 博貴君

○春日丘高校インターアクトクラブの皆様、社会貢献全国奨励賞おめでとうございます。

○米山記念奨学感謝状ありがとうございます。 朽本 正樹君

○先日モレラ岐阜のフードコートにラーメン屋を Open しました。 岡本 博貴君

○久しぶりの参加なので。 宅間 秀順君

○インターアクターの皆さんの卓話を楽しみにしています。 川瀬 治通君

○卓話を楽しみに。 大原 泰昭君

○花見例会晴天祈願。 青山 博徳君

○我が家の鉢植えのチューリップも 2～3 日中に咲きそうです。 山田 治君

○本日の卓話を楽しみにしております。

岩村 幸正君 梅村 守君 大西 信之君

小川 長君 加藤 昭博君 加藤 茂君

加藤 宗生君 北 健司君 近藤 太門君

清水 勲君 下田 育雄君 下別府正樹君

社本 太郎君 峠 テル子君 友松 英樹君

内藤 修久君 成瀬 浩康君 野間 峰彦君

場々大刀雄君 早川 八郎君 速水 敬志君

廣瀬 清司君 藤川 誠二君 古屋 義夫君

三上 努君 村瀬 昌史君 森部 清孝君

○ご協力ありがとうございます。

ニコボックス委員会

卓話 中部大学春日丘高校 インターアクトクラブ

3 月 26 日(金) 春日井ロータリークラブ例会【活動報告】

① 会長挨拶

中部大学春日丘高校インターアクトクラブ会長岩越莉那です。

顧問の松本に代わり、インターアクトクラブの定義を説明させていただきます。インターアクトクラブとはロータリークラブにより提唱された、12 歳から 18 歳までの青少年または高校生のための社会奉仕クラブです。ロータリークラブの支援を受けて設立されるインターアクトクラブでは、活動を楽しみながらロータリークラブの「超我の奉仕」を学び、行動力を身に着けます。また、インターアクトクラブでは学校や地元地域でボランティア活動をしています。異文化について学び、国際親善に貢献する、地元ロータリークラブからの指導と支援を受けてプロジェクトを実施し、リーダーシップを養います。

今回はこのような機会にお呼びいただき、ありがとうございます。今日は会長、副会長をはじめ、全国大会で賞を取ったメンバーを連れてきました。今年度の活動と来年度の活動の予定を報告させていただきます。

② 活動報告

皆さんこんにちはー！！

春日丘高校インターアクトクラブの舟橋巧と木元茉愛です！

私たち春日丘高校インターアクトクラブはこれまで「目の前の人を笑顔に！」を目標に高校近くの高齢者施設や障害者施設、保育施設で手遊びや体遊び、工作教室、折り紙教室などを行っています。また、絵本の読み聞かせ、ペープサート、手遊びのような保育の技術も学んでいます。最近では、遊び歌コンサートのようなお楽しみタイムのご依頼も増えており、幼稚園や児童センターなどで時間をいただいております。また、地域のお祭りやイベントなどでは、運営ボランティア、障害者の方が作られているラスクなどの商品を委託販売し、フェアトレード商品や東北支援商品であるはちみつを販売しています。また、ダンスパフォーマンスも行ってきました

ですが、新型コロナウイルスの影響により今までのような 0 歳から 100 歳まで、健常者から障害者まで幅広く交流する活動が厳しくなっていました。人と人との距離を近づけ、対面での会話をするのは、私たちの生命線でした。コロナ禍で問題視されたのは、その生命線の全てでした。私たちと同じようにロータリークラブの皆様も、活動の幅が狭くなっていると思います。このような状況の中でも「目の前の人を笑顔に！」するためには何をしたらいいのか、私たちに何が求められるのか日々追求しました。

私たちが出した答えは「敢えて活動を継続する」ということです。今まで私たちが築き上げたコミュニケーション能力や、手遊び・体遊びなどのボランティアスキルを失ってはならない、私たちを必要としてくれる活動場所はまだまだあるためです。そこで、私たちは新しい活動場所を探しました。そして、新たに見つかったのがいえ丸タウン・オハナカフェ・東海つばめ学習会・春陽・まこっちゃんち・テトリン村というところでした。これらがどのような場所なのかは、これからの月別の活動報告内でご紹介いたします。では、私たちの今年度活動報告です！

4月から5月は学校が休校となってしまったので6月から参ります。

6月は新しい活動場所である無料塾春陽という所に行きました。経済格差が学力格差に繋がる。勉強の苦手な小中学生に対して、一緒に問題を解くことで勉強の楽しさを教え、学力を伸ばす無料塾です。他には、ここの写真にあるように特別養護老人ホームであるしょうなあさひがおかでの草取りボランティアを行いました。コロナウイルスによる影響で高校が休校となってしまい、まったくボランティア活動が出来なくなっていた中、久しぶりの活動となりました。ベランダからはしょうなの方たちが私達に手を振ってもらいました。久しぶりにしょうなの方々と会うことができ嬉しく、安心しました。障がい者支援施設である夢の家という施設にて、ダンスパフォーマンス・手遊び体遊びパフォーマンスを行いました。ダンス・手遊び体遊びも私達にとっては久しぶりのことであり、普段より多くの練習・企画を練りました。実際行ってみると施設の方たちにとっても喜んでいただき、私たちも達成感を味わいました。やはり、我々の活動場所はオンライン上ではなく、対面での顔と顔を合わせるものでなければならぬと思います。

7月は心の泉という重度心身障害者の方がいる施設でコミュニケーションや絵本読みを行いました。心の泉では、身体の不自由な方たちが多くおり、身体機能の低下により口から直接食べ物を摂取できなくなった方に胃から栄養を摂取する医療措置である胃ろうの体験をさせてもらいました。この体験はまさに看護実習さながらの体験であり他ではなかなかできない貴重な体験です。また、無料塾春陽でも活動を行いました。

8月は福祉の里にて、ピエロというレクリエーション大会を指導する団体と協力して、子供達とラダーゲッターや工作を行いました。参加した子供たちの数は少なかったですが、その分たくさん関わることができました。当時コロナウイルスの影響により活動が中止になることが多くありました。一回一回の活動の大切さを知りました。また、愛知人という災害支援ボランティアの方々と協力して、令和2年7月にあった熊本での豪雨災害の支援をするための募金活動を高蔵寺駅で8月と9月の計2回行いました。私たちは今まで「目の前の人を笑顔に」という理念

のもと活動をしてきました。しかし募金は目の前の人々が笑顔になるわけではないため、頻繁に活動はしてきませんでした。コロナの影響で目の前の人々の支援がしづらくなっている今こそ、目の前だけでなく周りに視野を広げて、人の力になれるのはお金の支援が一番なのではないかということになりました。ですが、問題はあり、このコロナ禍の中、声を出しながら募金活動をしていいのかとの思いもありました。そこで事前に音源を取り、それを流すことにより、コロナ対策を行いました。他にも休憩時間には手洗いうがいをし、アルコール消毒などもこまめに行いました。結果、多くの方にご協力をいただく事が出来ました。

9月は、東海つばめ学習会という、家庭の経済事情によって学習塾には通えない子供達に勉強を教え、子供自身が進みたい道に進めるようにということを目指して活動している団体の元で中学生に対して、授業を行いました。授業では、中学生の目線に立ってすべてを企画・運営しています。当日の2週間前から準備を開始し、何度もリハーサルを繰り返します。高校受験を経験した私達だからこそできる、年齢の近い私達だからこそできる授業を行っています。また、すまいるという、障害者の方が仕事に就くための準備をする施設で、利用者さんの作業サポートや、畑仕事のお手伝いをしました。他にも、熊本支援復興募金や、春陽でも活動を行いました。

10月は春日井市総合福祉センターにてお楽しみ会を開催し、レクリエーションスポーツ大会を行いました。お楽しみ会では大きく体を動かす体遊びや、傘袋ロケットを製作しました。レクリエーションスポーツ大会では、障害を持った子供達や大人の方と協力して、的あてや玉入れなどを行いました。春日井シティープロモーション打ち合わせでは春日井市企画政策課のシティープロモーション室と連携して地元愛の醸成、多くの人に春日井を知ってもらうためにはどうしたらよいかを考えました。現在も継続中です。他にも、無料塾春陽、東海つばめ学習会、すまいるなどでも活動を行いました。

11月は勝川駅でフェアトレードフェスタがありました。これは、フェアトレードを中心とした商品を販売することで、フェアトレード商品についての理解を深め、多くの人に知ってもらおうという事を目的としたイベントです。私達はここで運営のお手伝いとフェアトレード商品のポーチや、東北支援商品のはちみつなどの物品販売を行いました。また、名古屋熱田ローターアクトクラブ合同例会では、コロナ禍におけるボランティアの在り方についてのファシリテーショングラフィックを行い、互いに考えを深め交流しました。他にも春陽や、東海つばめ学習会、東部子育てセンター、オハナカフェでも活動を行いました。

12月は障害のある子供達が通う放課後等デイサービスのいえ丸タウン、重度心身障害者の方がいるオハナカフェ 365 という新しく見つかった福祉施設、

コロナにより伺うことができなくなっていた健常の子供達の保育を行っている東部子育てセンターにて活動を行いました。いえ丸タウンでは普段、子供たちと一緒に施設近くの公園に遊びに行ったり、私たちがお楽しみ会などを行ったりしています。12月のいえ丸タウンでは、クリスマス会に参加しました。私たちインターアクトクラブのメンバーが全員サンタクロースやトナカイの姿に扮装して、サンタクロースにちなんだ手遊びや・体遊びを行いました。オハナカフェ 365 でも私たちが手遊びや体遊びを行うお楽しみ会を開きました。これらの新しい施設においても今まで培ってきたボランティアスキルを活用することで、どこでも適切に対応することができます。他にも、春陽クリスマス会、ママの文化祭でも活動を行いました。

1月はこども食堂という、料理を作ることを通じて、子供が主体的に行動することを目的としている活動で、子供の調理サポートをしました。子供食堂は、新しく見つかった活動場所です。今回はカレーライスと野菜チップスを作りました。ともに調理することで子供たちと深く交流することができ、コミュニケーション能力を育みました。

また、油ヶ淵水辺公園で行われた新春フェスタでは、運営のお手伝いや物品販売、ダンスパフォーマンスを行いました。

他にも、春陽や東海つばめ学習会、オハナカフェや東部子育てセンター、いえ丸タウンでも活動を行いました。

2月はオハナカフェ 365、東部子育てセンター、先ほどのこども食堂、東海つばめ学習会でも活動を行いました。今回のこども食堂では、豚汁、カップちらしずしを作りました。子供たちと一緒に来てくれたお客様に配膳をしたり、食器洗いをしたりして前回よりも仲良くなることができました。東海つばめ学習会では授業も行っていますが、個別指導も行っています。個別指導とは春日丘高校インターアクトクラブと生徒が一对一で学習することです。勉強も教えることもそうですが、生徒とコミュニケーションをとることも大切です。ここでも春日丘高校インターアクトクラブが普段から福祉施設で必要とされるコミュニケーション能力を活用しています。

3月は、2月に起きた福島沖地震の復興支援をするために高蔵寺駅で募金をしました。また、まこっちゃんちという、比較的障害の軽い子供が通う放課後等デイサービスに本日も伺っています。他にも、東海つばめ学習会や、オハナカフェ、東部子育てセンターにいえ丸タウン、子ども食堂やぐるっぼパークフェスタといった様々な場所で活動を行いました。

皆様から頂いている支援金はこのような活動の交通費や経費の一部に使わせていただいております。詳しい会計は後日おくらせていただきますのでご確認ください。

私達春日丘高校インターアクトクラブはこのようにコロナ禍にあっても毎週のようにボランティア活

動を行っています。これらの普段の活動などを、全国高校生SBP交流フェア、みんなの未来サミット、愛知県高等学校文化連盟ボランティア専門部活動発表、第24回ボランティア・スピリット・アワードと言うスピーチ大会で発表し、どれも県大会出場、全国大会出場を果たし賞も頂いています。このような賞をいただいたおかげで、中日新聞の取材を受けたり、zipFMの番組に出演したりしました。つまり春日丘高校インターアクトクラブの活動は多くの方に評価され、認められているという事なのです。また、これらの大会に出場することで多くの方に春日丘高校インターアクトクラブのボランティア活動を知ってもらうを通して、さらなるボランティア理解につながるのです。

続いて、今後の活動予定についてです。来年度は今年度に続いて、東海つばめ学習会、東部子育てセンター、いえ丸タウン、オハナカフェ、春陽、まこっちゃんちなどといった施設へのボランティアや、地域・福祉施設のイベントなどといった運営ボランティアに加えて、新しい活動場所であるテトリン村での施設ボランティアや、今年度新型コロナウイルスの影響で伺うことが出来なかった、いちごのプールでのボランティアを予定しています。このような活動を全て合わせた来年度の活動予定回数は約200回で、そのために必要な活動予定動員人数は、1000人にもなります。

今後、春日丘高校インターアクトクラブが発展し、街中、日本中、世界に広まることで、多くの人を笑顔にしたいのです。私達はこれからも「目の前の人を笑顔に！」するために活動を続けていきます。今年度も多くの活動が出来たのは、各施設から春日丘高校インターアクトクラブが求められているからです。

私は春日丘高校インターアクトクラブに入って多くの成長をすることが出来ました。1番成長出来たのは、対応能力です。春日丘高校インターアクトクラブに入る前の私では、急にトラブルや想定外のことが起きてしまったらすぐに焦ってしまい、どうしたら良いのか分からない！とあたふたしてしまい、すぐに対応すること等全く出来ませんでした。ですが、春日丘高校インターアクトクラブに入って先程の活動報告で紹介させて頂いたような、様々な活動経験を積むことができ、多くの知識が身につきました。そのお陰で心に落ち着きが見えてきたのです。なので、どのような場所においても事前にどんなトラブルが想定されるのか、どのようなことに気をつけなければいけないのかなどをあらかじめ把握出来るようになったのです。そうすることで以前の私とは違い、焦ることなくどんな事にでも対応する力がつきました。これにより、私はひとつの活動に対してより適切な対応をとる事が出来るようになったのです！このように、春日丘高校インターアクトクラブのおかげで私は人として成長することが出来ました。

私は春日丘高校インターアクトクラブの活動を多

くのスピーチ大会で発表してきました。多くの方に私たちのことを理解してもらうためには、コミュニケーション能力と伝える能力が必要です。ボランティア経験を多く積んでいる先輩方や他校と関わる機会が多くあったため、コミュニケーション能力と伝える能力を学ぶことができました。また、コロナにより活動が少なくなってしまうことで、顔と顔を合わせて会話をする事の大切さ、ボランティアができる事の大切さを学びました。これからも日々の活動を大切に、より多くの方に「笑顔」になっていただくために、さらに成長していきたいと思えます。

ありがとうございました！！

③ 副会長締め

インターアクトクラブ副会長大山峰です。先ほど、木元と舟橋が報告したのは今年度の活動の全てです。今年度はコロナ禍の中ではありましたが、活動を行い利用者さんが笑っていただくので、ありがたいことに施設の方からも求めて頂いています。なので、今年度も活動数を100回以上行うことができました。

部員数約70名の副部長となり、またコロナにより当たり前のことができなくなっていく中で、新しいことも増えていき、部員をまとめることは私にとって難しいものでしたが、成し遂げることで、チームを率いる力の難しさを知りました。

私たちは今年度の年次大会をもって引退をしますが、後輩にも私たちの手遊び体遊び、ペープサート等のスキルを受け継いでもらいたいです。そのために、さらに多くの能力を身に付け、インターアクトクラブ一丸となって成長できるように努力してまいります。



委員会報告 出席委員会 友松 英樹君



委員会報告 ニコボックス委員会 野間 峰彦君



会長挨拶 和田 了司君



委員会報告 社会奉仕委員会 青山 博徳君

卓話

中部大学春日丘高校・インターアクトクラブ様



米山記念奨学会より感謝状授与 和田 了司君



米山記念奨学会より感謝状授与 朽本 正樹君



ポール・ハリス・フェローより感謝状授与
大原 泰昭君





幹事報告 朽本 正樹君



名古屋城北 RC 創立 35 周年で頂いた記念品



中部大春日丘高 インターアクトクラブ

社会貢献 全国奨励賞に喜び



奨励賞に輝いたインターアクトクラブの部員
＝春日井市松本町の中部大春日丘高で

中部大春日丘高校(春日井市松本町)のインターアクトクラブが、全国の中高生の社会貢献活動を表彰する「第二十四回ボランティア・スピリット・アワード」の高校生部門で、最高賞に次ぐ「SPIRIT OF COMMUNITY 奨励賞」を受賞した。(小林大晃)

軽作業品の販売収益を還元 ■「目の前の人を笑顔に」

ボランティア・スピリット・アワードは米国のブルデンシャル・ファイナンシャルが一九九五年に米国で始め、九七年に日本でスタートした。今回は二百八十件の応募があり、インターアクトクラブは東海・北陸ブロックのブロック賞に選ばれ、さらに昨年十二月にオンライン形式で行われた全国表彰式で奨励賞に選出された。高校生部門の奨励賞は四組しかない。

審査では、同クラブが数年前から取り組むプロジェクト「いっばいのありがとうカンパニー(IAC)」が高く評価された。地元企業と協力し、障害者施設や高齢者施設の利用者らに、メモ帳の包装など軽作業を担当してもらい、同クラブが販売した収益を作業工賃として還元している。周りからの感謝の気持ちを施設の利用者らに実感してもらう狙いがある。

同クラブは「目の前の人を笑顔に」を目標に、約六十人の部員で活動。施設を訪問してのレクリエーション活動や地域のイベント出演など、対人ボランティアを中心に取り組んできた。しかし、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大で、訪問先の面会制限やイベント中止が相次ぎ、従来の活動ができなかったという。

二年の岩越莉那会長(こも)は「コロナ禍で全く活動できない中、本当にどうしようかと戸惑った」と振り返る。休校で会合も開けず、無料通信アプリ「LINE(ライン)」を使って部員同士の意思疎通を図った。二〇二〇年度はIACに加え、市内の無料学習塾で、学習機会に恵まれない小学生に勉強を教える支援活動も新たにスタートした。

同クラブの顧問の松本誠太教諭(ま)は「人と人とのつながりを大事にするボランティアを目指してきたことが受賞につながった」と生徒の努力をたたえる。岩越会長も「コロナ禍でも新しいボランティアの形を示せた」と喜びを語った。